県立下田高等学校

フューチャー・ハイスクール

令　和　３年　度　年　間　報　告

１　＜成果指標と実績＞

＜成果指標と実績＞					
成果指標	初期値	Ｒ５年 目標値	Ｒ３年 実績（評価）	Ｒ４年 実績（評価）	Ｒ５年 実績（評価）
①「家庭学習の中心」が「自分で必要と判断した学習」である生徒の割合　１年	33%	100%	33%(－)	%( )	%( )
２年	35%	100%	35%(－)	%( )	%( )
３年	27%	100%	27%(－)	%( )	%( )
②１週間の家庭学習時間の平均　１年	3.2h	2h	3.2h(－)	h( )	h( )
２年	2.6h	2h	2.6h(－)	h( )	h( )
３年	4h	3h	4h(－)	h( )	h( )
③自ら進んで授業に取り組む生徒の割合　１年	19%	100%	19%(－)	%( )	%( )
２年	29%	100%	24%(E)	%( )	%( )
３年	20%	100%	20%(E)	%( )	%( )
④授業内容等に興味があって学校を選択した生徒の割合	57%	Ｒ６年 90%	Ｒ４年 %( )	Ｒ５年 %( )	Ｒ６年 %( )

２　＜年間の取組報告＞

(1) 学習活動と成果の町民への発表会の実施

○３年生、科目「課題研究」等で行っているプロジェクト学習の成果発表会を町民に対して開催（コロナ感染症対策のため、地元ケーブルテレビ２社にて放映、第２回南伊豆分校魅力化推進協議会にて上映　２月 14 日）

○３年生、科目「食品製造」の学習成果、パン・焼き菓子等をオープンスクール（11 月 20 日）、農芸祭（１月 22 日）にて配布。町役場にて販売（年間３回）

(2) 新教育課程に向けた地域共同学習の推進

地域と学ぶ学習活動を 15 回実施した。

○１年生、地域を知る学習で町役場訪問（町の観光課題を学習）（４月 22 日）、２年生、地域に学ぶ学習としてカーネーションの販売実習（4 月 23 日）。

○２年生、町と連携した農業とキャリア形成に関する講演とワークショップの実施（９月 27 日）

○２年生、地元ＪＡと共同した落花生の栽培技術向上に向けての共同作業（６月 11 日、10 月 15 日）

○１年生、賀茂地区青年農業士を招いた出前講座（10 月 20 日）

○２・３年生、道の駅下賀茂温泉湯の花のファーマーズマーケット生産者と共同の学習会「つくる楽しみから、売る楽しみへ　失敗しない野菜づくりでプロの農家に　家庭菜園から直売所販売へ（講師　恵泉女学園大学　藤田　智)」を実施（12 月２日）

○全校生、植物工場完成披露会に合わせて参加者と共に講演会「農業という「物差し」を極大化して地域ブランドでイノベーションせよ！（講師　地域活性化伝道師(内閣府)　中村 健二)」を実施（1 月 26 日）

○３年生、南伊豆町認定こども園との園芸交流の実施（年間７回）

(3) Society5.0 にむけた学習の推進

○植物工場「トヨタネ株式会社　磐田ナーサリー」における教員研修の実施（10 月 13 日）

○植物工場「三菱ケミカルアグリドリーム(株)天宝喜農場」における教員研修の実施（11 月 25 日・26 日）

○植物工場「明治大学農学部　黒川農場」における教職員研修の実施（３月８日　実施予定）

※スマート専門高校推進事業「複合環境制御装置（水耕栽培装置)」完成披露会（1 月 26 日）

(4)「文・武・芸」三道を自ら学ぶ生徒の育成

〇全校生徒、芸術鑑賞教室を本校と合同開催（10 月 14 日）

〇全校生徒、町内２中学校１年生を招いての合同講演会「人と動物と植物の絆～物言わぬ命との対話～（講師　大塚敦子）」を実施（11 月 12 日、はごろも夢講演事業）

〇３年生、日本園芸療法学会 2021 年大会（大阪府高槻市）にて３年生プロジェクト学習の発表（12 月５日）

〇教職員、校内研修「特別支援教育の視点から見た授業のユニバーサル化（講師　静岡大学　山元　薫）」の実施（10 月５日）

〇教職員、町内小中学校及び本校・定時制教職員との共同研修会「学校で生かす生徒指導力「互いに認め合い高め合う学級づくり」（立正大学　鹿嶋真弓）」の実施（10 月 21 日）

〇教職員・保護者、町内小中学校ＰＴＡと分校ＰＴＡの合同研修会「「成績があがるノートのとり方」東大合格生のノートから考える親子で学ぶ「ノート力」（講師　太田　あや）」の開催（11 月 20 日　町教育委員会共催）

〇教員、本校・定時制職員と共同した研修会「「先生のためのことばのセミナー」（講師　ＮＨＫ放送研修センター　専門委員　伊藤　健三）」の実施（12 月 24 日・27 日）

３　＜特徴的な取組＞

南伊豆町が主催する県立下田高等学校南伊豆分校魅力化推進協議会との連携を充実させ、町の第６次総合計画の基本目標Ⅰ「地域の資源と人が創る魅力ある学びと成長のまちづくり」と連携したキャリア教育を行っている。

本年度より、グランドデザインを作成し「農業で学ぶ、地域と学ぶ」をコンセプトとし、「地域に役立つ人材の育成」を町との共通の目標に、インターンシップの充実に努めている。学校教育から社会教育への繋がりをつくり、学年ごと１年次をリセット期、２年次を自律期、３年生を自立期と定め学年に応じたコンピテンシーを身につけるように取り組みをスタートさせた。

2010 年から科目「生物活用」の中で実施されている町立認定こども園との園芸交流（園芸保育）が注目され、今年度は、全国紙「読売ＳＤＧｓ新聞（7 月発行）」で取り上げられ、静岡大学教育学部生の卒業論文のフィールドワークとなり、公益財団法人静岡新聞・静岡放送文化福祉事業団「第 11 回ふるさと貢献賞」を受賞した。（交流プログラムの研究を生徒が日本園芸療法学会 2021 年大会にて発表）

また、昨年度、栽培するカーネーションが花卉として県内初のしずおか農林水産物認定を受け、今年度は全校生徒で栽培床の用土入れ替えを行うなど学校全体での協働を進めている。

次年度からの新学習指導要領の実施にあたって、スマート専門高校推進事業により「複合環境制御装置（水耕栽培装置）」【植物工場】を導入し、科目「農業と環境」「農業経営」等を行う中で新しい農業教育を実践する予定である。

４　＜成果と課題＞

今年度は、生徒が地域と学ぶことで、今までの自分をリセットし、自分自身の可能性や、仲間との協働の大切さに気づき、自分の住む地域の未来を考える事を目標とした。コロナ禍ではあったが、地域と学ぶ学習活動では、講師や地域住民ら大人との対話を通して、自信を持てたり地域の期待を感じたりする事ができた。カーネーション温室の用土入れ替えでは学年の垣根を越えて協働作業を行い、学校全体で物事をやり遂げる事を学んだ。次年度は、生徒自らが考えて行動する自発的な活動ができるよう学習活動の深化を図りたい。

教員は、新しい教育課程の実施に向けて、南伊豆分校生のコンピテンシーを意識したカリキュラムマネジメントを行う事を目標とした。町内の小中学校教員や本校・定時制教員との合同研修において専門職性を深めた。農場教育においては、Society5.0 にむけた学習の推進に向けて植物工場の研修を校外で行う事ができた。自己肯定感の低い生徒を如何に自発的な学びに導くかが課題であり、次年度は、今年度学んだ、構成的グループエンカウンターの研修を更に深めて「問いを立てる授業」について本校との合同研修会を、町の小中学校教員と「こどもを主語にした学びを～インクルーシブ教育と不登校を考える～」のテーマで合同研修会を行う。

学校は、南伊豆分校魅力化推進協議会と学校が育てるべき「地域人材像」を協議し、町と連携したキャリア教育を検討する。生徒の多様なニーズの対応した教育活動の整備を行う事を目標とした。町と連携したキャリア教育では単なる就職・進学先の決定ではなく、賀茂地域での生き方、暮らし方、働き方を考える様々な機会をつくる事ができた。次年度からは、南伊豆町に加えて下田市との連携も始まる予定である。引き続きキャリア教育の充実に努めたい。